住み慣れた地域で暮らし続けるためのお宝探し情報紙

MIYAGI

まちづくりと地域支え合い

山元町で行政区ごとにグループワークを実施（詳しくは3頁へ）

CONTENTS

2 MIYAGIの今 17 名取市
３年かけて全域で地区情報交換会を実施

3 MIYAGIの今 18 山元町
住民が行政区の地域活動を自慢し合い、活性化へ

4 先進の地から〈9〉福島県平田村
月１ペースで協議体
話し合いの楽しさが地域づくりの推進力に

6-8 2016年度　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議の活動報告

宮城県内外の
生活支援コーディネーターおよび協議体の
取り組みを発信しながら、
住民や専門職・関係機関の意識を高め、
最後まで住み慣れた地域で暮らし続ける
社会づくりを目指します。

vol.10
2017.5

みやぎのいま MIYAGIの今 17

名取市

3年かけて全域で地区情報交換会を実施

市全体の高齢化率は低いが、地域によっては、高齢化の進んでいる地区もあるという名取市。2016年2月より、地域の情報交換などを行う「生活支援サービス協議会」を立ち上げました。その会が第1層協議体であり、老人クラブや民生・児童委員、商工会、農協、シルバー人材センター、介護事業所などを代表する13人で構成しています。

DATA

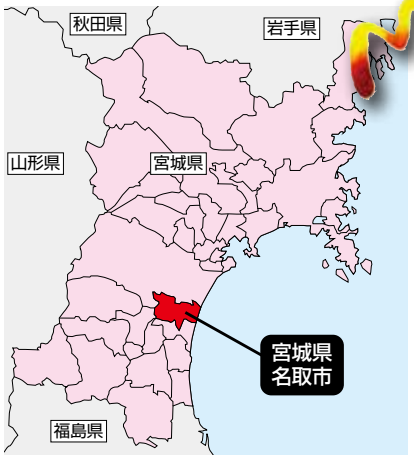
名取市

人口　78,109人（2017年4月30日現在）

高齢化率　21.3%

新しい介護予防日常生活支援総合事業の実施　2017年4月

生活支援サービスの体制整備の実施　2016年2月



市と市から委託を受けている市社会福祉協議会は、2016年の10月から翌2月にかけて、市内11地区のうち、下増田・名取が丘・高舘の3地区の公民館で、「地区情報交換会」を開催しました。地域で活動している人たちに呼びかけた結果、各会場でおよそ40人の地域住民が集まり、地域を「知ること」「見ること」を目的に、地域の「お宝」といえる、住民間の支え合い活動について情報共有しました。「食事のおすそ分け、買いものに行った先でのおしゃべりなど、人と人とのつながりのたいせつさが再確認されるとともに、地域に必要だと思われる支え合い活動を考える機会になりました」と、市健康福祉部介護長寿課課長の小久保真由美さんは話します。

3月には、情報交換会をもとに、第1層協議体のメンバーや住民を対象に、「地域支え合い報告会」を開催。100人近い参加がありました。介護保険に関して市から説明を行ったあとで、地区情報交換会に参加した住民から、健康体操の集まりや市社協の配食サービスの配達をしてくれるボランティア、町内会行事による「通いの場」の活動内容が発表され、地域を越えて情報を共有することができました。

市は、毎年異なる地区で情報交換会を開催し、3年間かけて市内全域を巡る計画です。情報交換会を行った地区では、2年目は住民がやりたい活動を実施し、3年目以降はその活動の「見直し」「継続」を目標に取り組む予定で、市と市社協がサポートしていきます。2018年度に全11地区での情報交換会を終え、各地区で住民が必要だと考える新しい活動が立ち上がることを期待しているところです。

生活支援コーディネーターは市社協が受託していて、復興支援センターの主任コーディネーターでもある関雅子さんが、2016年6月から担当しています。カメラを片手に地域の集いの場など足を運び、動画を撮影します。映像を見やすく、わかりやすいものに編集し、DVDに保存して活動者に渡すととても喜ばれるそうです。

生活支援コーディネーターは関さん1人ですが、市社協ではほかにも3人の職員が地域支え合い活動の業務を担っています。常日頃より地域に出向いているため、取材や住民に関する情報収集などでも心強い味方です。「チームのメンバーも一緒に楽しんで活動しています」と笑顔の関さん。チームワークを生かして活動しています。

市では以前から、健康体操を目的にご近所同士が集まる「通いの場」などの普及・啓発を行っていて、住民が日常的に交流する居場所づくりにも取り組んでいます。

哲

地区情報交換会のグループワーク

地域支え合い報告会

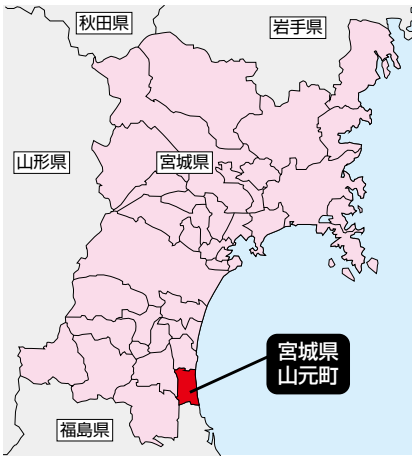
生活支援コーディネーターと一緒に活動する名取市社会福祉協議会の皆さん

名取市健康福祉部介護長寿課の皆さんと、市社会福祉協議会の生活支援コーディネーター関雅子さん（左から2番目）

みやぎのいま MIYAGIの今 18

山元町

住民が行政区の地域活動を自慢し合い、活性化へ



DATA

山元町

人口	12,570人（2016年3月31日現在）
高齢化率	37.1%
新しい介護予防日常生活支援総合事業の実施	2017年4月
生活支援サービスの体制整備の実施	2017年4月

災害公営住宅や集団移転地の造成が完了した山元町では、今年度5月より生活支援体制整備事業を町社会福祉協議会に委託。町内24行政区に従来からある「地域支援ネットワーク」を軸に、地域活動の活性化を目指します。町内全域を対象とする第1層には、町社協に生活支援コーディネーターを1人配置し、第2層は4小学校区を単位に被災者支援の経験を持つ生活支援相談員4人が、生活支援コーディネーター業務を兼務します。町保健福祉課課長の桔梗俊幸さんは、「被災者支援の経験を活かし、またその人材を活かして、山元町の強みを発揮できれば」と話します。

町は昨年度、直営の地域包括支援センターや町社協の協力を得て、住民対象の「地域ふれあい支え合い研修会」を10～12月にかけて実施。町内23行政区ごとにグループワークを2回行い、さまざまな住民活動を明らかにしたのち、その中から住民の皆さんに1つ選んでいただいた活動を紙面にまとめました。特徴は、その活動が「健康づくり」「つながりづくり」「見守り活動」などの効果をもっていることに気づき、紙面にもマークで記したことです。行政区長をはじめ、民生・児童委員など延べ126人が参加し、地域支援ネットワークでの食事会や、ビニールハウスでのお茶会、畑での百姓談義、女性だけが参加する催事「二十三夜のつどい」など、地元の自慢の活動について花を咲かせ、その意義を再確認しました。

さらに、今年2月には町全体を対象に、各行政区の自慢の地域活動を発表し合う「地域ふれあい支え合い活動発表会」を開いたところ、約150人もの住民が参加。活動の様子を撮影した動画の上映や、完成した紙面のお披露目もあり、参加者からは笑いや拍手が巻き起こって、会場は大いに盛り上がりました。紙面は町内全戸に配付されました。

そこで今年度は、町内4小学校区ごとに同様のグループワークを行い、より細やかな活動を拾い出して冊子にまとめるとともに、来年2月に町全体での活動発表会を計画しています。町地域包括支援センター所長の高橋千代子さんは先日、ある行政区長から『今年のグループワークは、地域のことをより知っている人たちを参加させるようにするから』と声をかけられたそうで、2年目を迎える『地域自慢』は、ますますヒートアップしそうな予感です。あわせて、今年3月にできた新団地（新行政区）、宮城病院周辺地区のコミュニティづくりにも力を注ぎながら、山元町全体の活性化を目指します。

知

23行政区ごとに実施したグループワーク

盛り上がった2月の「地域ふれあい支え合い活動発表会」

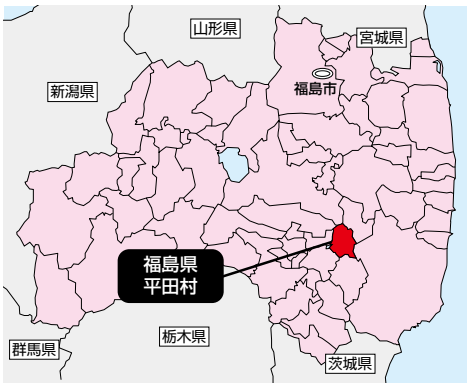
グループワークをもとに作成した「山元町住民支え合いガイドブック」（A2・4つ折り）

町保健福祉課および町地域包括支援センターの皆さん

先進の地から〈9〉

月1ペースで協議体 話し合いの楽しさが 地域づくりの推進力に

◎福島県平田村



【ひらたむら】

福島県南部、標高450～500メートルの山間に位置。冬の降雪は少ないが冷え込みは厳しく、最低気温は氷点下10度以下になることも。2016年4月の中学校統合で村内の中学校区は一つになり、生活支援体制整備の第1、2層は同エリア。日常生活圏域は18ある集落（行政区）が基本。集落内の家屋は点在し、高齢者の移動支援と孤立防止が課題。人口は1965年に約1万人だったが、減少が続き2017年4月1日時点で6359人、高齢化率は28・3％（県全体は29・7％※17年3月1日時点）。16年3月策定の「村人口ビジョン」の推計では、40年の人口は4297人、高齢化率は43・3％と予想。

福島県平田村は、2016年4月、第1層の生活支援コーディネーターを配置、翌5月には第1層協議体を設立しました。以降、協議体は月1回のペースで開かれています。

前年度の計11回の協議体のうち、有識者を招いての地域づくりに関する勉強会や先進事例の視察などが7回を占め、メンバーが生活支援体制整備への理解を深めることに重点が置かれました。

●「80歳の自分」を想像

今年度第1回目の協議体は4月18日に開かれました。前年度の勉強会などの成果を踏まえ、メンバー一人ひとりが「高齢になっても暮らしやすい平田村」のあり方について、グループワーク形式で話し合うことに。メンバーは2グループに分かれ、まず「自分が80歳になったらどういう暮らしをしていたいか」を自由に述べ合いました。

「車やバイクを運転して好きなところへ出かける」「体が不自由でも認知症でも、友だちが家に遊びに来てくれる」「家族や夫婦で旅行する」「畑を続けて孫に野菜をあげる」「ひ孫と一緒に散歩する」「買いものは自分でする」「トイレだけは人の世話にならない」「花見会など地区の行事には参加し続ける」「仲間と一緒に暮らせるシェアハウスをつくる」など、実にさまざまな生活像が示されました。

このほか、「年齢を答えたときに『えーっ80歳なの』と驚かれるくらい若々しくいたい」「旅行を楽しむ。一緒に行く人は別にダンナじゃなくてもいいわよ」など、笑いを誘う話もしきりに飛び交いました。

続いて、これらの生活像を「趣味」「健康」「移動（運転）」などに分類整理。そのうえで、いくつかの短い文章がまとめられました。

その文章は、「畑仕事ができる体力を維持して花や野菜をつくり、収穫をおすそ分けして家族や地域の人たちに喜んでもらう」「自分で車の運転ができる、あるいは気兼ねなく運転を頼める人がいて、好きなときに出かけて自分で買いものをする」「困ったことを気軽に相談できる人が近所にいる。何かあれば近所の誰かがすぐ駆けつけてくれる」といったもので

DATA

福島県平田村

人口	6,359人（2,191世帯）
高齢化率	28.3% ※2017年4月1日時点
新しい介護予防日常生活支援総合事業の実施	2016年4月
生活支援サービスの体制整備の実施	2016年4月

す。これらは、暮らしやすい地域づくりや介護予防の具体的な取り組みを今後検討していくうえでの指針・目的とされました。実現に向けた具体策は、次回以降の協議体で話し合っていく予定です。

協議体のメンバーは、老人クラブや婦人会といった住民活動組織の役員や元役員、ボランティアセンターの代表、民生・児童委員、地域包括支援センターや村社会福祉協議会、民間介護事業の専門職、それに生活支援コーディネーターと生活支援体制整備を所管する村健康福祉課の職員など計16人。事務局は同課とコーディネーターが担当します。

同課課長補佐の鈴木保子さんは、「前年度は勉強会や視察が大半で、メンバー同士が話し合う時間があまりありませんでした。今年度は話し合いに十分な時間をあて、地域づくりのあり方や協議体が果たす役割について、一定の方向性を見い出せるようにしたい」と語っています。

前年度の話し合いでも、地域づくりに直結する動きがすでに出ています。

「介護保険の制度やサービスが住民を地域から引き離した面があるとの指摘が協議体の場でなされたのをきっかけに、デイサービスセンターのスタッフが利用者の近隣住民に『何曜日は家にいるから遊びに行ってあげて』と声がけするようになりました」（鈴木さん）

●「楽しさ」を共有する

コーディネーターは、前年度は協議体の事務局として、その立ち上げとその後の企画・運営にほぼ特化した活動をしていました。

「今年度は協議体運営だけでなく、しっかり地域に入って住民活動や人と人とのつながり、地域の課題などを把握したい」

こう語るのはコーディネーターの吉田清子さん。元看護師で、１９７８年に村へ嫁ぎ、90年から村社協の福祉活動専門員として高齢者世帯の訪問活動や生活支援に従事してきました。昨年４月、村が村社協にコーディネーター業務を委託したのに伴い、その任に専従しています。

「隣保班（隣組）の葬式手伝いのような住民活動や、『講』などの行事で培われた住民関係を地域づくりに生かしたい。伝統的な組織や行事は交流と支え合いの基盤で、これらの維持、継承も重要です」（吉田さん）

村社協は、村から地域包括支援センターの運営業務も受託しており、コーディネーターは同センターに所属しています。「地域でのつながりづくりと、そのつながりを踏まえた個別の介護予防プラン策定などがしやすい」（鈴木さん）といったメリットがあるとのこと。

村では、16年４月の中学校統合で中学校区が一つだけとなり、第1、2層が同エリアです。一方、住民の日常生活圏域は、18ある集落（行政区）が基本単位。このため将来的には、各集落のサロンなどにコーディネーターが赴くことで、事実上の協議体として機能できるようにすることも検討されています。

第1層協議体の会長で、小平地区の婦人会長を務める関根孝子さんは、「協議体の話し合いは楽しい。この楽しさを集落でも共有したい」と言います。

楽しさの共有はつながりを生み、つながりは支え合いの母体となります。協議体はその実践の場でもあるのだと、平田村の取り組みが教えてくれています。利

協議体の様子

生活支援推進連絡会議の活動報告

させた「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の昨年度の活動をご報告します。

1 連絡会議の開催　2回

普及啓発や情報交換を行うため、行政、職能団体及び事業者団体等で構成される連絡会議を開催しました。

	日　時	開催場所	出席人数	内容
第1回	6月10日(金) 13:00～16:30	仙台ガーデンパレス (鳳凰の間)	135人	○基調講演「生活支援コーディネーター・協議体が果たすべき役割について」 講師　一般財団法人医療経済研究・社会保障福祉協会 医療経済研究機構　研究員　服部　真治　氏 (前厚生労働省老健局　介護保険計画課・振興課併任課長補佐) ○2016年度事業計画説明 ○情報交換
第2回	2月2日(木) 9:00～10:00	仙台市福祉プラザ (第1研修室)	49人	○2016年度活動経過報告 ○2016年度事業概要説明 ○情報交換

2 セミナーの開催　2回

介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の円滑な実施を推進するため、セミナーを開催しました。

	日　時	開催場所	出席人数	内容
第1回 (本紙第5号に報告記事)	6月10日(金) 13:00～16:30	仙台ガーデンパレス (鳳凰の間)	135人	○シンポジウム「生活支援コーディネーター・協議体が果たすべき役割について」 事例報告1　福島県昭和村 事例報告2　宮城県多賀城市 事例報告3　宮城県岩沼市
第2回 (本紙第9号に報告記事)	2月2日(木) 10:30～17:30	仙台市福祉プラザ (ふれあいホール)	326人	第1回　宮城発これからの福祉を考える全国セミナー ○活動発表とディスカッション(第1部) 被災者支援従事者実践からの気づき 被災地での支援から考える ～被災当事者であり住民でもあるサポーターによる、地域での支え合い～ ○シンポジウム(第2部) 生活支援コーディネーターを支援する市町村等の取り組み やっぱり「地域づくり」～「あるもの探し」から、それらを活かす施策を推進～ ○シンポジウム(第3部) 地域支援事業を支援する県等の取り組み 宮城発これからの福祉を考える～新しい地域支援事業の姿～

3 運営委員会　12回

連絡会議の進行管理などについて審議し決定するため、毎月1回開催しました。

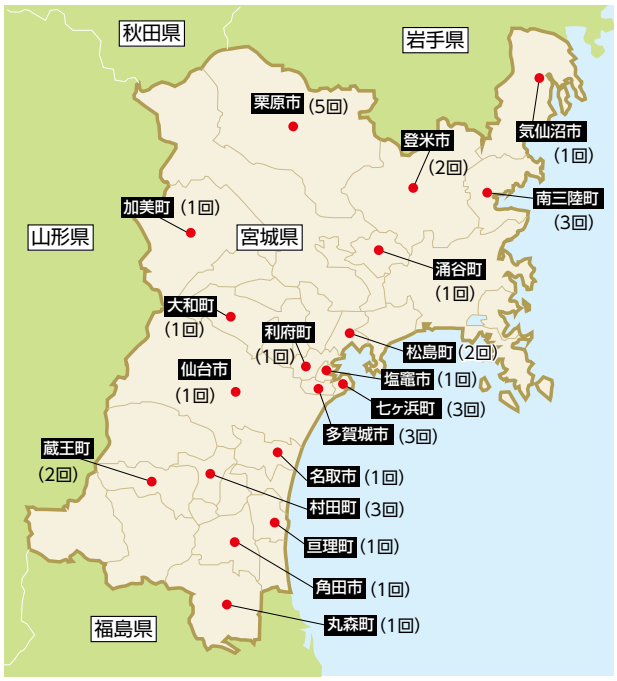
日　時	開催場所	出席人数	内容
4月14日(木)　10月13日(木) 5月12日(木)　11月10日(木) 6月10日(金)　12月15日(木) 7月14日(木)　1月12日(木) 8月10日(水)　2月 9日(木) 9月 8日(木)　3月16日(木)	県庁保健福祉部会議室 仙台ビジネスホテル 仙台ガーデンパレス TKPガーデンシティ	運営委員 13人ほか	○市町村訪問状況について ○アドバイザー(運営委員)派遣状況について ○生活支援コーディネーター養成研修及び応用研修について ○情報紙について ○情報交換会について ○連絡会議会員の加入について　等

2016年度　宮城県地域支え合い・

宮城県内の地域支え合いと生活支援の取り組みを推進するため、2015年10月に県が発足

4 市町村への情報提供及び助言

(1)県内市町村の実態を把握するとともに、情報提供や助言を行うため、アドバイザーを派遣しました。　34回



派遣日(回数)	派遣先	内容
4月 (1)	登米市	講演及び助言等
5月 (2)	仙台市 登米市	
6月 (5)	七ヶ浜町 七ヶ浜町 名取市 松島町 村田町	
7月 (3)	蔵王町 亘理町 南三陸町	
8月 (3)	松島町 加美町 大和町	
9月 (1)	栗原市	
10月 (2)	栗原市 多賀城市	
11月 (1)	栗原市	
12月 (6)	七ヶ浜町 蔵王町 村田町 多賀城市 多賀城市 塩釜市	
1月 (4)	村田町 栗原市 南三陸町 南三陸町	
2月 (3)	栗原市 涌谷町 丸森町	
3月 (3)	角田市 利府町 気仙沼市	

(2)市町村の現状・実態把握のため、アドバイザー同伴で訪問・ヒアリングを実施しました。　4回

訪問日	訪問先	内容
6月 (3)	利府町 蔵王町 村田町	助言
7月 (1)	亘理町	

(3)市町村の現状・実態把握のため、連絡会議事務局が訪問・ヒアリングを実施しました。　47回

訪問日	訪問先	内容
通年	34市町 (連絡会議事務局)	ヒアリング

5 情報交換会の開催　9回

県内高齢者福祉圏域ごとに、生活支援コーディネーターの活動や地域包括ケアを展開するための地域づくりについて、運営委員・行政職員・生活支援コーディネーター任命(予定含む)者とともに意見交換を行いました。

実施日	圏域	内容	
8月26日 (金)	仙台(岩沼) 仙南	講演	テーマ　「地域包括ケアを展開するための地域づくりのポイント」 講師　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議　運営委員
9月　2日 (金)	仙台(塩竈) 石巻・登米	情報交換	事前アンケートをもとに、新しい総合事業の実施状況や移行に向けた準備状況、生活支援体制整備の進捗状況等について情報交換を行いました。 ①介護予防・生活支援サービス事業について ②一般介護予防事業について ③日常生活圏域と協議体、生活支援コーディネーターについて　ほか
9月　8日 (木)	仙台(黒川) 大崎・栗原		
9月13日 (火)	気仙沼		
11月18日 (金) 11月22日 (火)	仙台市		

6 生活支援コーディネーター養成研修の開催

3段階の基礎研修に加えて、新たに5種類の応用研修を実施。受講者は基礎研修が延べ1027人、応用研修が延べ505人で、合計1532人が受講しました。

基礎研修	会 場	日 程	受講者数	
研修１ 初級研修	栗原会場：エポカ21	5月19日（木）	28人	計340人
	仙台会場：戦災復興記念館	5月26日（木）	91人	
	大河原会場：大河原合同庁舎	5月27日（金）	49人	
	大崎会場：大崎建設産業会館	9月15日（木）	50人	計196人
	仙台会場：宮城県自治会館	9月20日（火）	87人	
	石巻会場：石巻市河北総合センター	10月6日（木）	35人	
研修１-2 地域福祉コーディネート基礎・実践研修受講のための事前研修	仙台会場：東京エレクトロンホール宮城	5月31日（火）～6月1日（水）	109人	
	仙台会場：エスポールみやぎ	10月31日（月）～11月1日（火）	87人	
研修２ 地域福祉コーディネート 基礎・実践研修	仙台会場：宮城県自治会館	6月16日（木）～17日（金）	104人	計257人
	仙台会場：エスポールみやぎ	11月17日（木）～18日（金）	76人	
	仙台会場：宮城県自治会館	2月16日（木）～17日（金）	77人	
研修３ 生活支援コーディネート 基礎・実践研修	仙台会場：1日目　宮城県自治会館 2日目　仙台商工会議所	7月14日（木）～15日（金）	98人	計234人
	仙台会場：宮城県自治会館	2月13日（月）～14日（火）	66人	
	仙台会場：宮城県自治会館	3月23日（木）～24日（金）	70人	

応用研修	会 場	日 程	受講者数	
応用1 地域支え合い活動の 発見の仕方・広げ方	仙台会場：エスポールみやぎ	10月20日（木）	59人	計105人
	登米会場：登米合同庁舎	12月8日（木）	18人	
	名取会場：名取市商工会館	12月15日（木）	28人	
応用２ 地域福祉コーディネート中堅研修	仙台会場①：戦災復興記念館	9月5日（月）～6日（火）	37人	計72人
	仙台会場②：宮城県自治会館	2月23日（木）～24日（金）	35人	
応用３ 生活支援コーディネーターによる 実践報告＆事例検討	仙台会場①：太白区中央市民センター	7月28日（木）	61人	計103人
	仙台会場②：宮城県自治会館	3月16日（木）	42人	
応用４ 協議体の立ち上げと運営の方法	仙台会場①：エスポールみやぎ	7月1日（金）	41人	計109人
	仙台会場②：宮城県自治会館	1月19日（木）	68人	
応用５ 有償サービスの立ち上げと運営の方法	仙台会場①：エルパーク仙台	10月13日（木）	79人	計116人
	仙台会場②：宮城県自治会館	2月6日（月）	37人	

7 情報紙「MIYAGIまちづくりと地域支え合い」の発行

宮城県内外の生活支援コーディネーター及び協議体の取り組みを発信する情報紙を隔月で発行したほか、事業説明パンフレット（改訂版）を作成して配布しました。

8 その他

（1）各種団体と連携・協力し、市町村の介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施に務めました。
（2）研修等への参加等情報収集・情報提供に務めました。

住み慣れた地域で暮らし続けるためのお宝探し情報紙
MIYAGI まちづくりと地域支え合い vol.10
バックナンバーがホームページで読めます http://www.clc-japan.com/sasaeai_m/

発行日　2017年5月30日
編　集　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議
発　行　特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
〒981-0932　宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F
TEL：022-727-8730　FAX：022-727-8737
E-mail clc@clc-japan.com　URL http://www.clc-japan.com